若手教員支援サイト

学級担任のまなざし　21

Okayama Prefectural Education Center

R2.7. 6[Mon]

「地元は教材の宝箱」

放課後、ある教員が職員室で学級事務などをしていた時のことです。先輩教員が教頭先生と何か話をした後、「ちょっと出てきます。」と言って、校外に出かけていきました。

そんなことが何度かあったので、ある時「いつもどこに出かけているのですか？」と尋ねてみました。すると先輩から、「教材研究だよ。」という答えが返ってきました。その教員は不思議に感じました。教材研究といえば、「職員室で、教科書と指導書でするもの」と考えていたからです。先輩は続けてこう言いました。「地元は教材の宝箱だからね。」…より一層、分からなくなりました。

何日かたったある日、その先輩から「教材研究に行くけど、ついてくる？」と誘われました。「はいっ」と答え、教頭先生に一言告げて、先輩について行きました。道すがら、先輩は会う人会う人と言葉を交わしています。目的地の小さな商店に着くと、店の主人にいろいろな質問をしました。最後に先輩が「いいお話をありがとうございました。この店にかけるご主人の思いは、必ず子どもたちの心に響くと思います。授業の後、子どもたちが何人か質問に来ると思いますが、その時はよろしくお願いします。」と伝えていました。

先輩は3年生の社会科で、商店の仕事の授業を行うにあたり、子どもたちの住む地元で実際に商売している人から、働く人の苦労や工夫、思いや願いを直接学ばせたいと考えたのです。まだ、総合的な学習の時間がなかった頃の話です。

地元には商店を営む人以外にも様々な職人さんや農家、漁師さん、郷土の歴史に詳しい方など、その道のプロの方がたくさんおられます。そんな方々からの学びは、子ども達たちの心を大きく育ててくれます。